

京都市会海外行政調査審査会記録  
【再生可能エネルギー】

平成24年10月10日 開会

京都市会

京都市会海外行政調査審査会記録  
(再生可能エネルギー)

○平成24年10月10日(水)

○市会運営委員会室

○出席委員(9名)

会 長 加藤 盛司 議 員  
副 会 長 井坂 博文 議 員  
副 会 長 隠塚 功 議 員  
副 会 長 曾我 修 議 員  
委 員 田中 明秀 議 員  
委 員 加藤 あい 議 員  
委 員 佐々木たかし 議 員  
委 員 清水 ゆう子 議 員  
委 員 手塚 哲央 教 授

○欠席委員

なし

○調査計画提案者

山岸たかゆき議員  
寺田 一博 議員

○審査内容

再生可能エネルギーに関する海外先進事例の取組調査に係る審査

○配布資料

次第

京都市会海外行政調査審査会の組織及び運営に関する要領

京都市会海外行政調査実施要領

海外行政調査計画書

手塚哲央教授プロフィール

○要求資料

なし

○特記事項

なし

市会事務局長(大島仁)

ただ今から、再生可能エネルギーに関する京都市会海外行政調査審査会を開会いたします。委員の皆様方には大変お忙しい中、また、このような時間に御出席を賜りましてありがとうございます。

最初に、本日の委員出席状況でございますが、委員9名に御出席をいただいております。全員でございます。

次に、配布しております京都市会海外行政調査審査会の組織及び運営に関する要領を御覧ください。

第8条におきまして、会議は、審査会において許可した者が傍聴することができることと規定されており、本審査会の傍聴につきましては、市会運営委員会同様、市政記者の傍聴を認めておりますので、御承知おきください。

なお、本日は市政記者から写真撮影、またKBS京都からテレビ撮影の申し出がありました。これを許可することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

市会事務局長(大島仁)

御異議なしと認め、許可することといたします。

なお、テレビ局をお願いを致します。審査会の運営に支障を及ぼさないよう、御協力をお願いいたします。

また、本審査会の審査内容につきましては、後日、逐語録を作成し、公開いたしますので、御承知おきください。

それでは、初めての審査会でございますので、委員を配席順に御紹介いたします。

加藤盛司委員でございます。

委員(加藤盛司)

[午後7時2分 開会]

こんばんは。

**市会事務局長（大島仁）**

井坂博文委員でございます。

**委員（井坂委員）**

こんばんは。

**市会事務局長（大島仁）**

隠塚功委員でございます。

**委員（隠塚功）**

こんばんは。

**市会事務局長（大島仁）**

曾我修委員でございます。

**委員（曾我修）**

こんばんは。

**市会事務局長（大島仁）**

田中明秀委員でございます。

加藤あい委員でございます。

佐々木たかし委員でございます。

**委員（佐々木たかし）**

よろしく申し上げます。

**市会事務局長（大島仁）**

清水ゆう子委員でございます。

**委員（清水ゆう子）**

よろしく申し上げます。

**市会事務局長（大島仁）**

今回、学識経験者として委員に御就任いただいております、手塚哲央京都大学大学院エネルギー科学研究科教授でございます。

**委員（手塚哲央）**

手塚です。よろしく申し上げます。

**市会事務局長（大島仁）**

なお、手塚教授のプロフィールをお手元に配布しております。よろしくお願いいたします。

最後に、私、市会事務局長の大島でございます。

続きまして、今回は、最初の審査会となりますので、会長の選出をお願いいたします。

配布しております京都市会海外行政調査審査会の組織及び運営に関する要領を御覧ください。

第5条第2項におきまして、会長及び副会長は、委員の互選により定めると規定されております。

どなたか立候補、又は推薦はございませんでしょうか。

田中先生。

**委員（田中明秀）**

市会運営委員会の委員長、副委員長でお願いいただこうと思います。

**市会事務局長（大島仁）**

会長並びに副会長には、市会運営委員会委員長並びに副委員長に就任いただくことが良いとの御発言がございました。

委員の皆様、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

**市会事務局長（大島仁）**

ありがとうございます。

それでは、会長には加藤委員に、副会長には井坂委員、隠塚委員、曾我委員をお願いすることといたします。

会長，席の移動をお願いいたします。

それでは，これからの議事進行につきましては，会長にお願いしたいと思います。  
加藤会長，よろしくお願いいたします。

#### 会長（加藤盛司）

座ったまま失礼いたします。

ただ今，会長を仰せつかりました加藤でございます。

円滑な審査会運営ができますよう，誠心誠意努めてまいりますので，委員の皆様方の御支援，御協力をよろしくお願いいたします。

審査会の発言についてであります，必ず会長の指名を受けてから，マイクを用いて行っていただきますよう，よろしくお願いいたします。

本日の審査会についてであります，まず，調査計画書の提出者から説明をいただき，その後，委員の皆様が質問し，またそれに答弁することを繰り返すことで審査をしてみたいと考えます。

それでは，ただ今から海外行政調査に係る調査計画の審査に入ります。

今回，議長から諮問を受けております案件は，「再生可能エネルギーに関する海外先進事例の取組」に係る調査計画についてでございます。

それでは，提案者の山岸議員，寺田議員，提案者席へどうぞ。

それでは，提案者の説明をお願いします。

#### 提案者（寺田一博）

失礼します。座らせていただきまして，説明をさせていただきます。

今回，山岸副議長と私が共同で提案をさせていただきましたが，寺田の方から説明をさせていただきます。

まず，お手元の資料でございます，調査の目的，海外行政調査計画書です。こち

らの方の調査の目的ですが，省エネルギー社会に向け，脱原発を見据えた再生可能エネルギーの推進を中心に，当該分野における先進都市の施策等を調査することにより，市政が抱える諸問題を解決し，本市の更なる発展に寄与するため，各都市の取組や施設等を調査するというところでございます。

また，調査テーマは，「環境共生と低炭素のまち・京都」の推進に向けてという形で，皆さんに御提案をするものでございます。

まず，この調査の目的，そして調査テーマを選んだきっかけなんですけれども，昨年の震災をきっかけに，エネルギーのことについてはもう国民の多くが共有する問題という形で，従来は専門家の皆様方が中心だったと思うんですけども，日本人全てがやはりエネルギー問題について考えさせられる機会になりました。そういった中，海外も実はこの日本の震災をきっかけに，様々な政策の修正やあるいは方向転換をしているとも聞いています。その中で，やはり国内にとどまらず，海外の先進事例を学び，そして京都市の今後の方向性について，議会の方からも提言する必要性を感じたところでございます。当然，いわゆる省エネルギーですね。エネルギーの使用を減らすということと，そしてまた，エネルギーを生み出すその方法をどのようにしていくのか，原子力発電所の事故をきっかけに，やはり再生可能エネルギーが，今，市民的にもやはり色んな議論が出てる中で，果たしてそういったものが京都の町にどのような形で取り入れれば良いのかということを見ていきたいという風に思っております。

また，今年の5月に京都商工会議所の方の会頭ミッションという形で，スペイン，ドイツ，国は一緒なんですけども，今回の計画とは都市は違うのですが，スペイ

ンのマドリードやバルセロナ、そしてドイツのハイデルベルクなど、実際の京都市の経済界も視察に行つて、そしてその視察を終えて、最終まとめの中には、日本及び地域のリーダーは、将来を見据えたエネルギーの在り方を早急に取りまとめ、国民や地域住民にビジョンとして示すことを決断すべきであるという風に書かれております。その中で、我々議会がやはりそういった強い提言を示すためにも、従来の観光等で行けるところではない場所ではございますけれども、ドイツの各都市、また専門家のレクチャー、専門用語を理解しているそういった方の指導によりまして、視察を行いたいという風に考えております。

それでは、具体的な都市といたしますか、場所なんですけれども、これも皆様方のお手元でございます、今示しました海外行政調査計画書の中で、まずドイツの各都市にまいります。

調査行程及び経費という調査日程が5項目目にあるんですけれどもよろしいでしょうか。4枚目ですね。まず、フライブルクへまいります。ドイツという国を選定したのは、再生可能エネルギー関連の先進事例が多数あるということと、また脱原発という形でその方向性を明確に出している。そしてまた、電力の自由化ですね。そうしたことを行っている。ただ、総合的に当然行くからには、それだけではなくて実際に人々の暮らしといたしますか、そういったものをしっかりと見ていく必要があるという風に思っております。その中で、最初にフライブルクを訪問いたします。そして、原発の立地自治体のオブリヒハイムですね。オブリヒハイムの原発立地自治体では、実際にその原発の立地自治体の町長からのヒアリングをできれば受けたいということで、今計画をさせていただきます。私も実は

原発の立地自治体であります宮城の女川町へ行ってきて、その町長ともお話しさせていただいたんですけども、やはり実際の立地自治体の思いといたしますかそういったもの、あるいはそのこの市民の反応をお聞きしたいという風に思っております。

それから、今言いましたフライブルクなんですけれども、約人口は21万8,000人という形で、このフライブルクは様々な施策があるんですけれども、省エネの推進、そしてコージェネレーションの活用、再生可能エネルギーの推進、小水力の発電も恐らく京都では必要になってくるだろうという風に思っております。そうした施策をお聞きしたいという風に考えております。

それから、失礼しました。各都市の概要というのは後ろに付いてまして、後ろの方に横でなってます。こちらをちょっと見ていただけますか。少しちょっと戻りますけれども、ヴァルドキルヒというところありますかね。1ページ目です。こちらですね、この場所なんですけれども、実は非常に森と田園に囲まれたという形で、どうしても日曜日ということもありまして、いわゆる行政の視察ができませんので、この森林資源の有効資源についてという形で、現地で専門家による説明を受けることになっております。このヴァルドキルヒという町が人口約2万人という形で、森林資源を活用するという形でそのお話。そしてまた、このドイツの視察全般のレクチャーも実はこの日に受ける予定をしております。このドイツの視察なんですけれども、このドイツの視察は、今回はミット・エナジー・ビジョン社というところに現地コーディネートしていただく予定してます。これは、ドイツのフライブルクに到達して、このヴァルドキルヒから最終ミュンヘンを視察するまで、この間全てこのミット・エナジー・ビジョ

ン社による説明を受けることとなります。このミット・エナジー・ビジョン社というのは、日本のエネルギーシフトを中央ヨーロッパから支援するというを目的に、ヨーロッパ在住の村上氏、池田氏、滝川氏が今年3月に設立した会社で、主に再生可能エネルギーによる社会づくりを目的に、色んな技術、ノウハウ、経験、政策、コンセプトを通じて、日本のエネルギーシフトをサポートしたいという思いで、ドイツ、スイスを拠点にした10年以上にわたる環境エネルギー分野でのコンサルティングや執筆活動によって蓄積した欧州ネットワークと、それから専門知識、言語能力をいかして、そういった視察のコーディネートをしている会社でございます。そういった中で、従来海外の行政視察は、議員の方から様々な提言をして、そしてまた旅行会社がそういった要望に応じて選定をしておりましたけれども、今回は、このミット・エナジー・ビジョン社というそういう視察セミナーを専門的にコーディネートしている会社に、委託をして実行しようというのが特徴の一つでございます。失礼しました。視察のまた場所へ戻りたいと思います。

横の先ほどの各都市の資料なんですけど、ヴァルドキルヒの次にオブリヒハイムですね。これが先ほど言いました原発の立地でございます。町長にヒアリング予定をしております。

それから、フライブルクにつきましては、先ほども少し触れましたけども、いわゆる環境首都としても有名な場所です。様々な政策を行っておられます。エネルギー戦略としてこの表にまとめてありますけれども、実際、公共交通、LRTなどもあるようですし、また、様々な風力発電や小水力発電、地熱発電、太陽光発電、そして木質バイオマス発電等を実際に実行されて

る。今日の議会でもそうなんですけど、なかなか木質バイオマスにつきましては、京都も苦戦をしておりますので、そういった中でしっかりと情報収集していきたいという風に思っております。

それから、ヴィルトポルツリートなんですけれども、この場所は、エネルギーの転換を既に実現した村という風に言われておりまして、自分たちの住戸以上にいわゆるエネルギー再生をしているという風に言われておるところです。そういった取組がどのようにして行われたかということをお聞きしたいと思います。そしてまた、省エネホテルというものもございまして、実際にそこへ宿泊して、どれくらいのいわゆる通常のホテルに比べてエネルギーが抑制されているのか、また通常のホテルと比べて、宿泊者にとってどのように違うのかということも体験したいという風に思っております。

それから、ドイツ最後の視察地はミュンヘンでございます。ミュンヘンは、ほぼ京都市と同じくらいの人口を擁している町です。2030年までにCO<sub>2</sub>を50%削減するということを目標にしているんですけども、このミュンヘンでは市営エネルギー公社がございまして、この市営エネルギー公社がどのような政策をやっているのかということをししっかりとお聞きをしたいという風に思っております。ほぼ京都と同規模な都市ということで、共通できる問題があるかと思っておりますので、そういったこともお聞きをしたいという風に考えております。

それから、ドイツを発ちましてバルセロナなんですけども、このバルセロナをなぜ選んだかということとは、一つですね、京都市の中で今年いわゆるメガソーラーの話もあったと思うんですけども、やはりそのソーラー発電というのがクリーンエネルギー

一として今後重要に考えていかなければならない中で、このバルセロナという町は、いわゆるソーラーオブリゲーションですね。その建築をするときに太陽光を義務化していくという風な施策をいわゆるヨーロッパで一番最初に採った町でして、ここからいわゆるそういったものが広がっていったということで、そういった意味では導入されてから年月が経っておりますので、実際どの程度の住戸がそういう形になってるのかとか、あるいはそういった形で問題点が生じていないかということも分かるのではないかなというところで、こちらを訪問することになっております。

また、当然バルセロナは景観にもやはり様々な建築物についての配慮とも必要だと思いますし、そういった部分がいわゆるソーラー発電とどのような住み分けというんですかね。そういった折り合いが付いてるのかということもともに考えていきたいという風に思っております。

そういった形で、実際に今回再生可能エネルギーを中心とした視察を計画しておりますので、御審議をよろしくお願いいたします。

#### 会長（加藤盛司）

ありがとうございました。

では、ただ今の提案者からの説明について、何か御意見とか御質問があればどうぞ。

はい、井坂副会長。

#### 副会長（井坂博文）

昨日もそうでしたんですが、最初に手塚先生の方から今の説明を受けて、どのようにポイントを置くのか、あるいはここをこう考えたらいんじゃないかというのも聞かせていただいて、それでまとめて質疑した方がしやすいので、後でがらっとひっく

り返るとなんですので、最初お願いしたいんですけど、一応。

#### 会長（加藤盛司）

では、手塚委員、よろしくお願いいたします。

#### 委員（手塚哲央）

いや、最初皆様の御意見をお聞きしてからと思ったんですが、じゃ、ちょっとコメントと、あと質問とをさせていただきたいと思います。

まず、京都市からの視察ということですから、京都というと世界中どこでも京都議定書を皆さん思い浮かべるんですね。だから、そこからの視察ということですから、皆さん何かそういう情報をもらえるんじゃないかという訪問側として、そういう期待があるんじゃないかと思うんですね。だから、ちょうど京都市で何か地球温暖化に対する英語のパンフレットを作っておられるので、こういうのを是非持参されて、是非京都の宣伝をしてきていただきたいと思います。非常に価値があることじゃないかと思います。それがまずお願いしたいことの一点です。

それと、ちょっとこれは質問なんですが、事前に何か訪問先に関する例えばエネルギーの需給状況はどうなってるとか、エネルギー政策どうなってるという、そういう調査した資料というのは作られるんでしょうか。

#### 会長（加藤盛司）

寺田議員。

#### 提案者（寺田一博）

はい、まだこれは審査会今日これでお世話になって、可となったら実際に行く議員

が何人かなんですけれども、その議員が決定しますので、その議員にそうした訪問先のデータを示して、勉強会を何回かして、そして実際訪問するまでにそういったことを行う予定をしております。

#### 委員（手塚哲央）

是非、そういう情報を共有されるとともに、訪問先でどういうことを調査したいのかというその調査リストですね。それも是非作られて、調査の目的というのを共有されるといいと思います。特に、色んな話を聞いて質問してると、一体何を聞きたいのかというのが非常に曖昧になる場合が多いので、この調査はこういう目的で行くんだということを是非はっきりと認識されて行かれるといいと思います。

じゃ、あとちょっと個別に色々よろしいでしょうか。

まず、ヴァルドキルヒなんですけど、林業の調査ということで、これも京都市は北山杉、磨き丸太で非常に有名ですよ。そういう資料もしあるんだとしたら、そういうことも資料も是非持って行かれるといいかな。是非宣伝をしてきていただきたいと思います。日本の林業というのは余り活性化してないんですけれども、ドイツ的林業というのは非常に活発にされてますよね。そういう相違点がどこにあるのかということも調査されてこられるといいと思います。共通点について書かれてるんですけども、一体どこが違うのかというのが非常に役に立つんじゃないかと思います。特に、住民とか政策担当者の考え方ですね。価値観とか。そういうのは行ってみないと分からないことですので、そういうものを体感できてこそ、現地調査をした意味というのが出てくるんじゃないかなと思います。そういう感覚というのは、インターネットとか色んな本を

通じては絶対に得られないものですから、そういう経験をされてこられるといいかなと思います。

フライブルクなんですけど、これは非常に環境都市でも有名で、本もいっぱい出てます。だから、そういう本の内容を改めて聞きに行くということではなくて、そういうところからでは得られない情報を獲得できるかというのが今回の訪問の意義をアピールするためにも必要なことかなと思います。時間大丈夫でしょうか。

ヴィルトポルツリートなんですけど、スマート・グリッドの調査されるということですよ。スマート・グリッドに関しては、世界的にもまだ定義がはっきりしない、目的もはっきりしないという、そういう烙印が押されてる対象でもあります。だから、もしここが成功してるということであれば、その政府の担当者、それから住民の意識というのがこのスマート・グリッドに対してどういうものであるかということ、是非これも体感されてこられるといいかなと思います。技術に関しては、それほど真新しいものはないと思いますので、むしろ社会としてそういうものをどう受け入れようとしているのかというのが、やはり興味の対象かなと思います。

あと、ミュンヘンとバルセロナなんですけど、京都市と非常に近い都市ということで行かれるということですよ。是非京都市、ミュンヘン、バルセロナの比較対照表というんですか。どういうところが似ていてどこが違うのかということ、エネルギーの需給、それから経済、文化、それから自然、もちろん施策ですが、の点でどの辺が違うのかということ、をまとめられるといいかなと思いますね。そういうのに基づいて質問事項をきっちり作って行かれると、非常に興味深い訪問になるのではないかなと思います。

ます。

エネルギーというのは非常に色々な調査項目があるんですけども、恐らく一番大切なことは、エネルギーを使う人間がエネルギーに対してどう考えているのかということで、これは地域によって全然違うんですね。そういうエネルギーに関係する文化というのを調査されるというのが一番大きなポイントかなと思います。

ちょっと色々しゃべりましたが、大体以上でございます。

#### 会長（加藤盛司）

ありがとうございました。

では、今、手塚委員から今回の視察のポイントみたいなものを御説明というかお話しいただいたと思うんですけど、それについて井坂副会長どうぞ。

#### 副会長（井坂博文）

今、ずっと局別の質疑もやってまして、明日環境政策局で原発の問題の議論もするんですけど、やはり我々日本で生活して京都にいて、原発に対してどう向き合っていくのかというときに立地県でありませんで、その辺が先ほど調査都市のようなリアリティーに欠ける面はあるんですが、是非調べるべきだと思うのは、脱原発ということの姿勢ですよ。行政、そして住民、市民運動をやってらっしゃる方がどういうスタンスで臨んでるのか。今の民主党政権を例にとれば、原発ゼロというのを表明できないままその脱原発を言うということで、非常に矛盾してるような気も致しますので、最終的には原発に頼らないという政治決断をしながら、どういうプロセスで脱原発に向かっていってるのかという辺り。その辺りは是非調べていただいて、こちら帰ってからの議会の論戦にもいかしていただきたい

いというのが一つです。

もう一つちょっと細かい問題ですけど、確かこれ見てますと、ヴィルトポルツリートですか。スマート・グリッドなんですけど、結局2,500人の人口で、この人口を全て再生可能エネルギーで賄ってると。要はこれだと思うんですよ。メガソーラーやっても1,000世帯だと、所詮。という理屈で言うと、結局だめなのかってなっちゃうけど、細かく細かく単位を分けていくとできるんだというね。これを積み上げていくことによって、その原発にも火力にも、ダムにも頼らなくても済むというのが京都でどうできるのか、日本でどうできるのかというあたりの先生もおっしゃいましたが、相違点であると同時に、どういう風にそれを京都に取り組んでいくのかというあたりは是非調べていただいて。私も一回テレビで、多分ここだったと思うんですけどね。木質バイオマスで、それを蓄電して、村の全部の世帯に通してるというようなね。そういうテレビの画像も見ましたんで、そのあたりは是非つかんできていただきたいなという風に思っています。

#### 会長（加藤盛司）

はい、寺田議員。

#### 提案者（寺田一博）

まず、原発に対してという形なんですけども、やはり京都は原発立地ではないんですけども、やはり原発立地を知らなければその脱原発であるとか、あるいはその原発ゼロというのはやっぱり言えないと思いますし、その立地のことも考えたうえで、我々はやはり考えていくべきだという風に思いますので、そういった意味では、原発の立地の話を聞くということは、立地でない京都にとっても意義深いことではないか

という風に思っておりますし、またそれは立地だけに限らず、この視察先各々の脱原発の姿勢、住民や行政の思いというのはしっかりと聞いてきたいという風に思っています。

それから、このヴィルトポルツリートなんですけども、ここだけで言えば人口2,500人という形で、京都は147万都市ですから違うじゃないかという形になるかもしれないんですけど、やはり京都には昔から培われた地域コミュニティというのがありますし、その地域コミュニティがエネルギーの分野でも、私はうまくいけばですね、その地域コミュニティがそのエネルギーのところでも活用できるんじゃないかなという風に思っていますので、人口は全然違いますけれども、もちろん京都全域、全て地域コミュニティがしっかりしてるというもんじゃないですけれども、その地域コミュニティのしっかりしているところから、例えば試験的にそういったことをやっということも可能んじゃないかなという風な思いも持っておりますので、そういった観点からも、この町での政策をしっかりと学んでいきたいという風に思っています。

ありがとうございます。

#### 会長（加藤盛司）

はい、ほかに。隠塚副会長。

#### 副会長（隠塚功）

先ほど、手塚先生からお話いただいたことというので、大変共鳴することが幾つもありまして、それは前回の海外行政視察で我々がフィレンツェに行ったときに、フィレンツェの市議会で議事を議長が抜けてこられて、1時間京都の取組を教えてくれということで聞かれて、それを説明した経

緯があるんです。それほどにやはり向こうへ行くと、京都の取組というのは進んでるという風に認識をされてるので、特にその大きな都市であれば、だからこそ同じようなことが自分の町ではできないかということが多分向こうは求められてると思うので、是非そういったところは、このミュンヘンであるとかバルセロナでは実現できるように、あえて議会側とかそういうところとも時間をとれるようなことを考えていただいたらどうかという風に思っています。

実は一点引っ掛かるのは、フライブルクが僕らもすごく環境に対して関心を持ってメンバーでも、一員でもあるので、もうフライブルクへ行ったら何日もそこで学んできたいと思う都市なんですよね。そのところで今回日程が実際市内一日ということになってしまうと、先ほど先生もおっしゃられた本で出てることをさらっと流して終わってしまうんじゃないかなという気はするんです。ですから、可能であればここを少なくとも2日ぐらいいていただいて、その中でより具体的にその中のどこか焦点を絞って、なかなかそういう本では得られない臨場感を得られるような情報を持ち帰っていただけると、この環境首都の取組というのが、その市民がどう関わって具体化してるかというその過程を様々な環境分野において見てきていただける。だから、一個一個のテーマに時間をとっていただけるだけの都市じゃないかなと思いますので、是非そこが可能であれば何か検討いただければ大変ありがたいなと。そして、その情報を結果として提供していただいたら、我々はすごく勉強になるなと思いますので、御検討いただければと思います。

#### 会長（加藤盛司）

寺田議員。

**提案者（寺田一博）**

一つ一つすみません。良い御質問をありがとうございます。そういう議会ともそういったことも考えますし、また、先生からおっしゃっていただいたように、やはり資料をちょっと少し多い目に持って行って、そういうところでも京都をアピールできればなという風に考えております。

それから、フライブルクに関しましても、実はこれはフライブルク3泊する予定でして、今回の行程の中で一番たくさん泊まる場所がフライブルクでして、当然原発立地自治体へ行くんですけれども、ちょっと行程が詳細ではないんですけれども、朝から晩までこの原発立地自治体に行くということではないので、今隠塚副会長がおっしゃったような形で、できるだけフライブルクに時間を取るような形で、多くの施策を学びたいという風に思っております。

ありがとうございます。

**会長（加藤盛司）**

曾我副会長。

**副会長（曾我修）**

今、先生の方から大変示唆に富んだお話を頂戴を致しまして、非常に私もそのとおりだなと思ったのは、やっぱり京都議定書発効の地のいわゆる議会がその現地に赴くということは、本当に相手国にすれば大変相手の地域の方々にとっても非常に期待をされてるんじゃないかと。その意味においては、非常に責任があるんじゃないかという風な気が非常に率直に致しました。そういう中で、寺田さんの方からも、事前に学習会等々をやって、それでしっかりと議論を深めて現地に赴きたいということについては大変結構なことだなという風に思いました。その中で、せんだっての議論もござ

いましたけれども、やはり体感をするということ、そしてまた地域の方々とのいわゆるコミュニケーションをしっかりと図りながら、よりそこで生きてらっしゃる、生活してらっしゃる方々の声をどれだけ多く聞けるかどうかということが非常にポイントになってくるのかなという風に思いました。特に私どもとしては、メガソーラーが今年スタートしたわけなんですけれども、10年を経過しているという地域もあります。当然買い取り価格のどんどん減額ということもされる中で、やはり市民負担の問題とかですね、色々そういう先進都市にとっての光と影の部分があるかと思imasuので、そういったことも踏まえて、よく調査をしてきていただきたいということを求めたいと思います。

以上です。

**会長（加藤盛司）**

寺田議員。

**提案者（寺田一博）**

ありがとうございます。京都議定書の地ということで、責任は今感じてたつもりですけれども、改めてまたしっかりと持っていきたいと思imasu。

それから、地域の方とのコミュニケーションなんですけれども、これも特にドイツでは、今言いましたように現地を精通した方たちによる視察になると思imasuので、特に行くまでにもう少しやりとりして、例えば地元の方との交流なんかの機会が設けられるかどうかも含めて、ちょっと今の御意見を取り入れればという風に思ってます。

ありがとうございます。

**会長（加藤盛司）**

田中委員。

#### 委員（田中明秀）

太陽光，今，京都もたくさんやってるんですけども，やっぱり再生エネルギーの場合は，非常にその地域特性というんですか，天候に非常に左右されたり，色んな面でしますので，太陽光をやってる中でバルセロナなんかとはやっぱり日照時間も違うでしょうし，その辺のところの京都やったらこれが再生可能地産地消のために有効であるというような，京都やったらこれやってというようなもんがやっぱりあるのか，そういうところを見ていただきたいのと，先生がおっしゃっておりました林業再生，三山に囲まれた盆地の京都で，今林業が大変疲弊をしている中で，再生エネルギーとともにですね，この林業の分野についてもまた見てきていただいて，京都の活性化にかしていただければと思います。

#### 会長（加藤盛司）

寺田議員。

#### 提案者（寺田一博）

まさに太陽光の件もおっしゃったとおりで，日照時間もちょうど私の調べたところでは京都が年間1,775時間に対して，バルセロナは2,524時間ということで相当開きがある。ただ，逆に雨の量が京都は1,491で，バルセロナは640しかないという形で，だからその地域によってその再生可能エネルギーでも特性はできると思いますし，その辺は今日も手塚先生がおっしゃっていただきましたように，例えば3都市の比較表なんかを作らせていただいて，そしてその中で，その都市の特性とそれからその政策の違いなんかもしっかりと浮き彫りになるようにしたいと思いますし，また林業につきましては，今日ちょっと手塚先生からも御示唆いただいて，私自身はちょっとそこ

ら辺は考えていなかったんで，そこら辺は今回の視察に時間をとっていただけるようにしたいと思ってます。

#### 会長（加藤盛司）

加藤委員。

#### 委員（加藤あい）

私の方は，先ほどからも今も出てたと思うんですけども，今の京都市でいいますと，やはりメガソーラーということが具体的には出ている自然エネルギー，再生可能エネルギーということに関わっては。それ以外のところで，本当にどういう条件と可能性があるのかということがいかに具体化されるかということがすごく大事だという風に思います。ですから，今も御提示あったような形で，是非京都の自然環境状況と行かれる先の状況ということを照らし合わせて，可能性，条件ということを是非持って帰ってきていただきたいなということが一点と，もう一点は，実際の生活とその全体像，エネルギー政策ということがつながって分かるということが要るなという風に思うんですね。今の日本の状況で言いますと，今の日本の今までの在り方というのが大前提ですので，市民の生活はどう変わることなのかということについて，具体的に分かるということがあればとても勉強になるなという風に思いました。

あと，原発立地自治体についてということで行かれるということだったんですが，報告書の中に，廃炉に当たっての市民の反応とか聞いてくる調査項目ということが紹介をされてるんですけども，京都と福井の関係ということを考えてときに，周辺自治体の反応であるとか，その京都の位置におられるような人たちがどういう受け止めをされたのか，どういう役割を果たされた

のか関係がなかったのか、そういうところら辺も聞いてきていただけたらなという風に思います。

**会長（加藤盛司）**

寺田議員。

**提案者（寺田一博）**

メガソーラー以外での京都の可能性、小水力なんかもよく言われてるんですけど、やっぱり今私言いました雨の量が多いと。それから、京都の土地の特性、山が多いということで、そういったことも恐らく今後京都の可能性としてあろうかと思えますし、その辺もしっかり見てきたいという風に思います。

それから、原発立地自治体のみならず周辺自治体の反応なんですけれども、これも恐らくそのフライブルクは、このオブリヒハイムとそう遠くない場所にありますので、その辺も含めて、このフライブルク自身が実は原発に反対してこういう環境首都になったという町ですから、そこも含めて他の都市もできれば聞いていきたいという風に思います。

**会長（加藤盛司）**

はい、佐々木委員。

**委員（佐々木たかし）**

すみません。ちょっとまた私、先生にお伺いしたいんですけども、今回各都市のここはこうですよという御説明というか御意見頂戴したんですけども、その調査目的に照らし合わせたときに、この視察先の妥当性であったり、いやここ行った方が、こんな大事なところ抜けてるやんかとかですね。逆に、そういう妥当性の部分というのはいかがなのか、お教えてください。

**会長（加藤盛司）**

手塚委員。

**委員（手塚哲央）**

非常に難しい質問だと思うんですが、特に行き先を見てというか、私、行ったことのないところがほとんどではあるんですけど、そんなに違和感は感じませんでした。むしろ、どこどこに行くべきだというようなことは余りないのかなと。一番大事なのは、やっぱり違う文化に触れて、そこでどういう風な考え方でエネルギーが使われているのかということを感じ取るというのがやっぱり一番大きなポイントかなと思うんですね。具体的に、個別に細かい違いとかを見るよりも、むしろ大きな民族レベルというんですか。違うところに住んでる人がどういう考え方をしてるのかということ是非体験してきていただきたいと思います。だから、そういう意味ではドイツの中、特にどこに行かなきゃいけないということはないのじゃないかなと思っています。

ちょっといい加減な返答で申し訳ないんですけども、行き先、それから訪問の目的に関しては非常に結構ではないかなと思っています。

ついでに一言よろしいですか。バイオマス、苦戦してるのかという話も先ほど出てましたけども、バイオマスの存在目的というのはエネルギーだけではないんですね。元々木としてあって、存在自体に価値があって、それを切り倒した後も別にエネルギーに使うために切り倒してるというのはほとんどないわけで、まず材料として使って、色んな価値がバイオマスには、木にはあるわけですから、バイオマス、木というものを見て来られるときには、決してエネルギー目的という見方はされないようお願いしたいと思います。存在するだけで森林セ

ラピーとか、水源かん養とか色んな目的があって、存在するだけというのは意外に気が付かないことが多いんですね。そういう今まで評価してなかった価値というものは是非現地の人はどう考えているのか、その辺が森林保全、林業の活性化に恐らく非常に大きなプラスになるんじゃないかという風に考えてます。

以上です。

#### 会長（加藤盛司）

清水委員さん、何か御意見あればどうぞ。

#### 委員（清水ゆう子）

皆様の御意見と、あと先生の御意見を聞かせていただいて、確かに今のこの各都市の特性、資料でいただいている分だけだと、やっぱり日本との相違というのが浮き彫りにはなってきたくないので、見に行っても全く京都と同じ都市というところは、似てる都市があったとしてもそのまま京都に持って帰ってくることはできないので、やっぱり事前に何が違う、そして、見て得たものを今度はどう京都にいかすかというものを、まず頭の中で考えたうえでやっぱり見に行かないと、見に行ったものの京都にどういかすかという部分がまたこっちに帰ってきてから机の上で議論をしていくようでは、やっぱり実現が可能にはなっていないかなと思うので、もう少し事前の勉強が必要なのかなという風には考えていますので、先生の御意見を聞いたうえで、もう少し違い、それから何が同じという部分をもう少ししっかりとしたものをしてうえて、議論を深めていければいいかなと思っています。

#### 会長（加藤盛司）

寺田議員。

#### 提案者（寺田一博）

先ほども言いましたように、事前の勉強会は複数回やるつもりです。ただ、ちょっと先生のお話を聞いてて私自身もふと思ったのは、余り頭でっかちになったらいかんのかなと。勉強はしっかりせなあかんと思うんですけども、やはりむしろ、この日曜日も森林資源の有効活用について、実はその森を歩きますよということを言われてるんですよね。ですから、今ちょっとはっと気がついたのは、やはりバイオマス自身が、我々も活用ばかりを考えてて、その存在だけで価値があるということがやはり改めて認識する必要もありますし、そういった事前学習もしっかりしながらもですね、やはりそういう体感であったりとか民族の違いであったりとか、その辺今日御示唆いただいた部分についてはもう一回そしゃくをして、しっかりと視察行くメンバーに共有をしたいという風に思います。

ありがとうございます。

#### 会長（加藤盛司）

それでは、御意見、御質問も出尽くしたようでございますので、本日の審査会については、質疑応答はこの程度にとどめていただき、前に手塚先生最後に何かここだけはという最後の一言ございましたらどうぞ。

#### 委員（手塚哲央）

先ほど言ったつもりだったんですが。もう外国も非常に行きやすい時代になりましたので、是非どんどん行かれるといいと思います。情報は吸収するだけではなくて、こっちからギブアンドテイクということで、情報は出した分だけ吸収してくるというぐらいのつもりで行かれるといいんじゃないかなと思います。

それと、是非議員さんだけに限らず職員

の方も積極的に参加できるようなそういうシステムになってもいいのかなと思います。以上です。

**会長（加藤盛司）**

井坂副会長。

**副会長（井坂博文）**

昨日のロードプライシングのときは、いわゆる情報を共有するというので、できたら局の職員の人も。

**会長（加藤盛司）**

一緒に同行するというお話ありましたね。井坂副会長。

**副会長（井坂博文）**

こちらの方はどうなんでしょう。

**会長（加藤盛司）**

寺田議員。

**提案者（寺田一博）**

実は、今日紹介しました商工会議所の会頭ミッションは、産業観光局の産業振興室の方が同行されてるらしいんです。今回、それは国がそういった形でもあるから、しかもいわゆる経済界からの使者からということですけども、京都市の施策としては、地球温暖化対策室になりますので、地球温暖化対策室と今お話をしてるんですけども、できれば職員さん同行していただきたいということは、今内々には話してますけど、当然この審査会が終わって決定しないとできませんので、通ったあかつきには是非同行していただきたいということはお話ししてますし、恐らく同行はできるだろうという風に思っております。

**会長（加藤盛司）**

よろしいですか。では、質疑応答はこの程度にとどめさせていただき、本審査会として、今回の海外行政視察についての承認の可否をお諮りしたいと思います。

ただ今の調査計画について、指摘事項を踏まえ、本審査会として承認することでよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

**会長（加藤盛司）**

では、全会一致で承認をすることといたします。

ただ、今日の審査会で色んな手塚先生はじめ、委員の方々からも新しい視点、昨日のロードプライシングの場合はちょっと訪問先を変えてはどうかというちょっと根本的な部分もあったんですけども、例えば、C O P 3 京都議定書の発祥の地として、やはり受け入れの都市も期待されてるということも含めて、その辺京都の色んな情報発信ができるようにとか、また事前の勉強をしっかりとっていただきたいとか、特に使う人間のエネルギーに対するそれぞれの国の文化等々も勉強していただきたいとかいう多様な意見が出ました。また、原発についても意見が出ましたし、それらの意見を全てとは申しませんが、できるだけやはりいかす形で調査をしていただければありがたいかなと思います。

ですから、本件については、昨日の場合は計画書をもう一度再提出ということになりましたけども、手塚先生からもありましたように、行き先、目的については良いのではないかといい最後お話もありましたので、そういう今日出た意見を十分にいかしていただいて、これからまた載ってない部分についてしっかりと計画を立てていた

だきますように会長からもお願いを申し上げます。そして、今回の計画については、今日、基本的に承認されたということで、本計画の費用の件について、会長から一言申し上げたいと思います。計画書には、概算額が示されておりますけども、今後、実際の契約額の決定に当たりましては、本市の厳しい財政事情、状況を踏まえ、できるだけ経費を抑える努力をしていただきますよう、審査会会長としてもよろしくお願ひしたいと思います。以上でございます。

では、本日の審査会を終了いたします。御苦労さまでした。

[午後 7 時 55 分 散会]

会 長 加 藤 盛 司